



5月22日 「統括センター・営業統括センターの設立（第3期）について」に関する解明申し入れ  
東地申第66号 【大崎営業統括センター】団体交渉を行う！（その1）

<交渉のポイント>

## 営業統括センター設立の目的について

- 目的は、多様な経験や融合・連携で、新たな価値創造や地域連携を進めていく。融合はあくまでも手段。

## 教育・勉強会について

- 教育期間は一概に定めているものではない。本人のスキルに応じて設定。コミュニケーションを重視。
- 勉強会は現行大崎駅に移動して受講いただくが、目黒駅の会議室が使用可能となれば再度検討。

## 制服着用時の移動について

- 制服着用で移動中に業務が発生した場合は、事後でも必ず管理者に報告し、承認後時間外労働となる。
- 移動時間は時間外労働には算入しないが、労働か否かは、業務指示の仕方によって変化する。

## 個人用ロッカーの設置について

- 目黒駅に小ロッカーを設置した。大崎駅は検討中。現場で管理者に提案し柔軟に対応できる。

## 大崎運輸区との兼務について

- 人選は任用の基準に則る。
- 教導運転士の責務は否定しないが、それをもって教導運転士の兼務が否定されるものではない。
- 6/1以降は、教育をした上で目黒駅での勤務もありうる。
- 大崎駅輸送副長との兼務は、メリットがあれば行う。単独でやることは想定していない。

詳しい議論内容は、輸送サービス労組東京地本ホームページの団体交渉ページをごらんください。⇒



1. 大崎営業統括センターにおいて、今施策の目的をいかに達成するのか会社の考えを具体的に明らかにすること。

回答：これまでの硬直的な仕事の垣根を超えた柔軟な働き方を実現していくために、系統や事業分野を超えた業務を行うこととなる。

### 会社

目的達成のため駅の枠を超えて相互に働くことにより、多様な経験を積み融合と連携を進める。また、委員会や勉強会を盛り上げ、新たな価値創造を行う。さらに地域と連携し、目黒一大崎相互に流動をつくる。勉強会や踏切の実践訓練、地域のイベントを一緒にやるほか、大崎運輸区や東京総合車両センターとイベントをすすめていく。

### 組合

- ◆1期・2期の課題を克服しつなげていくのか
- ◆融合だけが目的ではないということよいか。
- ◆現場では融合を急いでいるという認識。定期多売期にトライアルに行っていて案内要員を確保できなかった。営業時間を過ぎて目黒駅出札のト列があったことは認識しているか。
- ◆現場長以下全社員一丸とならないと良い施策とはならない。しっかりと指摘すべき。

- ◆ストレスなく働けるよう、業務の標準化のためWGと業務に精通した社員で議論。前例で、細かな取扱いの違いがストレスにつながるという声があった。
- ◆融合はあくまで手段。最終目標は新たな価値創造や安全レベルの向上。
- ◆混雑は把握。応援や対策を行っていることは認識いただきたい。
- ◆意見を踏まえて必要な対応は行っていく。



### 5月22日 「統括センター・営業統括センターの設立（第3期）について」に関する解明申し入れ 東地申第66号 【大崎営業統括センター】団体交渉を行う！（その2）

2. 大崎営業統括センターにおける駅毎の特情について、会社の認識を明らかにすること。

回答：駅の規模等、職場を取り巻く環境の違いにより業務実態が異なることは認識している。

#### 組合

- ◆特情は。
- ◆トライアルの周知は。
- ◆体制変更で設置される事業副長の役割は何か。

#### 会社

- ◆大崎駅はビジネス街に加えて湘南新宿ラインや埼京線など輸送の拠点。目黒駅は東急線や地下鉄で地元や私鉄沿線のお客さまがメインで出札もありニーズにしている。
- ◆トライアルに行った社員は振り返りシートを使い WG 通信に掲載。引き続き実施。極力、情報はオープンにするよう伝えている。
- ◆3事業の連携が必要となるにあたって、現場のサポートを行うキーマン。

3. 大崎営業統括センターにおいて、異常時対応やこれまで目黒駅が管理している門扉、踏切について今後の対応方や教育方針を具体的に示すこと。

回答：引き続き、必要な教育・訓練は実施していく考えである。

#### 会社

5月の運転勉強会で相手駅の踏切の実踏訓練。門扉は資料を用いた教育を検討。これまで用いてきた資料をもとに勉強会を行う。

#### 組合

- ◆特情についての教育は。
- ◆大崎駅の社員が目黒駅の出札に入るのか。
- ◆見極めは誰が。
- ◆目黒駅の列車見張員OJTが一般社員に変更となった理由は。
- ◆異動者の教育期間が短くなり、他箇所では不安から休職者も発生している。
- ◆見習い延長とならなかった場合は。
- ◆5月の勉強会はどちらの駅で参加してもよいと言われている。
- ◆今後考えている教育内容は。

- ◆お互いに知る必要がある。Joi-connect365 での共有や勉強会で実踏・現車訓練を行う。方向性は今後検討。
- ◆大崎の経験者が目黒のトライアルに入っている。WG中心で6・1以降は裾野が広がっていく。未経験者の教育も行っていく。
- ◆最終判断は現場長。先生や管理者が把握しコミュニケーションをとる。今までのやり方と変わらない。
- ◆権限移譲。教えることで成長に期待。意義を伝えることは大切。不安があった際はフォローが必要だと思うので管理者に伝えてほしい。
- ◆目安はあるが本人のスキルを勘案。コミュニケーションを取り不安解消に努めるのが管理者の役目。先生や管理者とのコミュニケーションが大切。
- ◆周りから見て大丈夫という判断。目安を定めずに育成することはない。一律に首都圏本部や箇所毎で決めているものでもない。
- ◆どちらに参加することも可能だが、自分の知らない踏切を知るための勉強会であるという認識。
- ◆10月の運転勉強会で、駅間での旅客救済訓練を実施予定。

4. 大崎営業統括センターにおいて、運転・CS勉強会等、各種勉強会の必要性と今後の開催方法についての具体的に示すこと。

回答：引き続き、必要な教育・訓練は実施していく考えである。なお、開催方法については勉強会の内容等により判断していく。

#### 組合

- ◆勉強会の必要性は。
- ◆現行と今後の具体的な考えは。
- ◆社員は様々な意見を持っており、広く吸い上げるべきだ。

#### 会社

- ◆運転、傷害、営業の各事故の防止やサービスレベルの向上。
- ◆各駅ごとにやってきた勉強会は、今後大崎駅で対面で行う。目黒駅の会議室が使えないため大崎駅へ来てもらっている。使用可能となれば今後検討。お互いを認識するという意味で対面。ユニットで議論し最適なものを考えていく。
- ◆意見集約は重要。引き続き必要な議論は行っていく。





5月22日 「統括センター・営業統括センターの設立（第3期）について」に関する解明申し入れ  
東地申第66号 【大崎営業統括センター】団体交渉を行う！（その3）

5. 大崎営業統括センターが設立以降、全社員が遺失物を取扱うこととなるが、遺失物法や遺失物管理システムの教育について具体的な考えとスケジュールを明らかにすること。

回答：引き続き、駅内の勉強会等を通じて必要な教育・訓練は実施していく考えである。

組合

- ◆大崎駅では10分程度の説明しかなかった。
- ◆大崎駅社員は遺失物システムのIDは。
- ◆遺失物についての教育は重要。もっと具体的に教育方法を定めるべき。

会社

- ◆安全ユニットがメインで取り組む。トライアル前に大崎駅でも勉強会を実施することが理想だったが間に合わなかった。
- ◆必要な社員に付与。なおIDは他駅でも使用可能となっている。
- ◆必要な教育は行う。他箇所の取り組みを紹介していく。

6. 大崎営業統括センターにおいて、勤務作成の方法、作成箇所、作成者の指定について考え方を具体的に示すこと。

回答：勤務指定については、就業規則等に則り取り扱うこととなる。

会社

JINJRE上で新たなグループを作るほか、スキルを登録することで勤務指定をやりやすくする。負担がかからず確実なものとした。各駅で勤務をつくり調整していくが、絶対に一人でつくと決めているものではない。

7. 大崎営業統括センターにおいて、制服を着用し駅相互間を移動する際の考え方を具体的に示すこと。

回答：就業規則等に則り取り扱うこととなる。

会社

勤務指定された駅で勤務開始から終了までが労働時間。着替えるスペースは用意している。制服持ち運びについての社員の声は把握しており、検討していくが、現状変化はない。

組合

- ◆制服移動中にお客さま対応した場合は労働時間で良いか。
- ◆他箇所ではトライアルや勉強会のための移動が超勤となっている。

- ◆管理者の指示で業務した場合は勤務。速やかに管理者に報告し、その承認で超勤となる。
- ◆就業規則上、超勤とはならない。業務の連続性や勉強会の中身、業務指示の仕方や業務の実態をみて判断することとなる。管理者には改めて周知する。

8. 大崎営業統括センターにおいて、貸与品を保管するための個人用ロッカーなど必要な設備の整備について考え方を具体的に示すこと。

回答：必要な設備の整備は行っていく考えである。

組合

- ◆個人用ロッカーを設置すれば多くの問題が解決する。
- ◆大崎駅出札跡地は活用できないのか。

会社

- ◆基本的にはどちらかの駅にロッカーを設置。小ロッカーについては目黒駅設置済み、大崎駅検討中。管理者と相談して決めてほしい。
- ◆意見は伝える。現場で柔軟に対応できるようになっている。

9. 大崎運輸区からの兼務者について目的を具体的に示すこと。また、今後の方針を明らかにすること。

回答：これまでの硬直的な仕事の垣根を超えた柔軟な働き方を実現していくために、系統や事業分野を超えた業務の融合や、兼務・連携はこれまで以上に進めていく考えである。

会社

目的は系統を超えた柔軟な働き方で、駅と乗務員職場で新たな課題解決を図る。人選は最終的には任用の基準。

組合

- ◆教導運転士は運転士養成に集中すべきだ。
- ◆兼務とジョブローテーションの違いは。
- ◆目黒駅での勤務も想定しているのか。
- ◆輸送副長の兼務の考えは。

- ◆教導運転士の責務同様、兼務が否定されるものではない。
- ◆多様な経験は似ているが、軸足の違い。
- ◆その通り。その際は、教育を行っていく。
- ◆非現実的。単独は想定していない。

安全で働きやすい営業統括センターを実現するため、職場から声を上げ、検証運動をつくりだそう！